資料 3

白糠町の介護保険事業の特徴

厚生労働省の地域包括ケア「見える化」システムを活用し、認定率、受給率及び受給者 1 人あたり給付費等を全国や全道の平均、近隣市町村と比較し、白糠町の介護保険事業の特徴を分析しています。

地域包括ケア「見える化」システム（https://mieruka.mhlw.go.jp/）とは、地域包括ケアシステムの構築に向けて、全国や都道府県、市町村等の特徴や課題、取組等を客観的かつ容易に把握できるように、介護・医療関連情報を広く共有（見える化）するためのシステムです。

1．地域分析

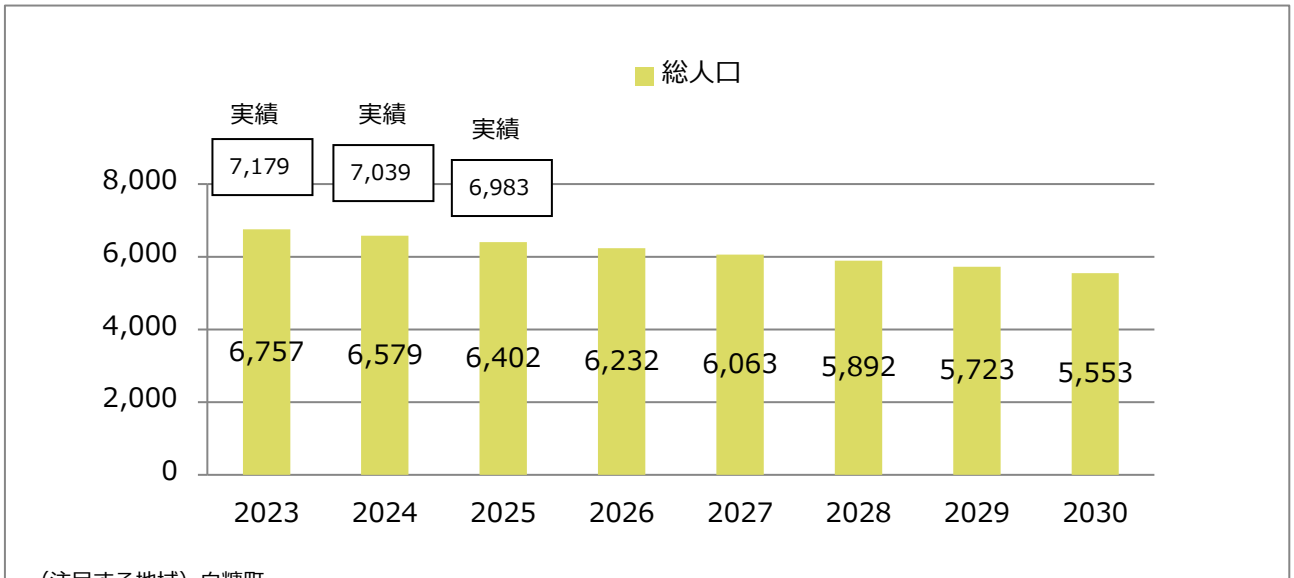
① 人口と高齢化率

「総人口」及び「高齢化率」については、総務省「国勢調査人口等基本集計」および国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」の値に、2023 年、2024 年、2025 年（2 月現在）は実績値を加えています。

【総人口】

図 1 のとおり白糠町の人口は、年々減少傾向にあります。直近の 2025 年 2 月の人口は 6,983 人で、2030 年は 5,553 人と推計されています。実績値と推計に開きがあるのは、「見える化」システムによる推計よりも人口の減少率が低かったためと考えられます。

（図 1）



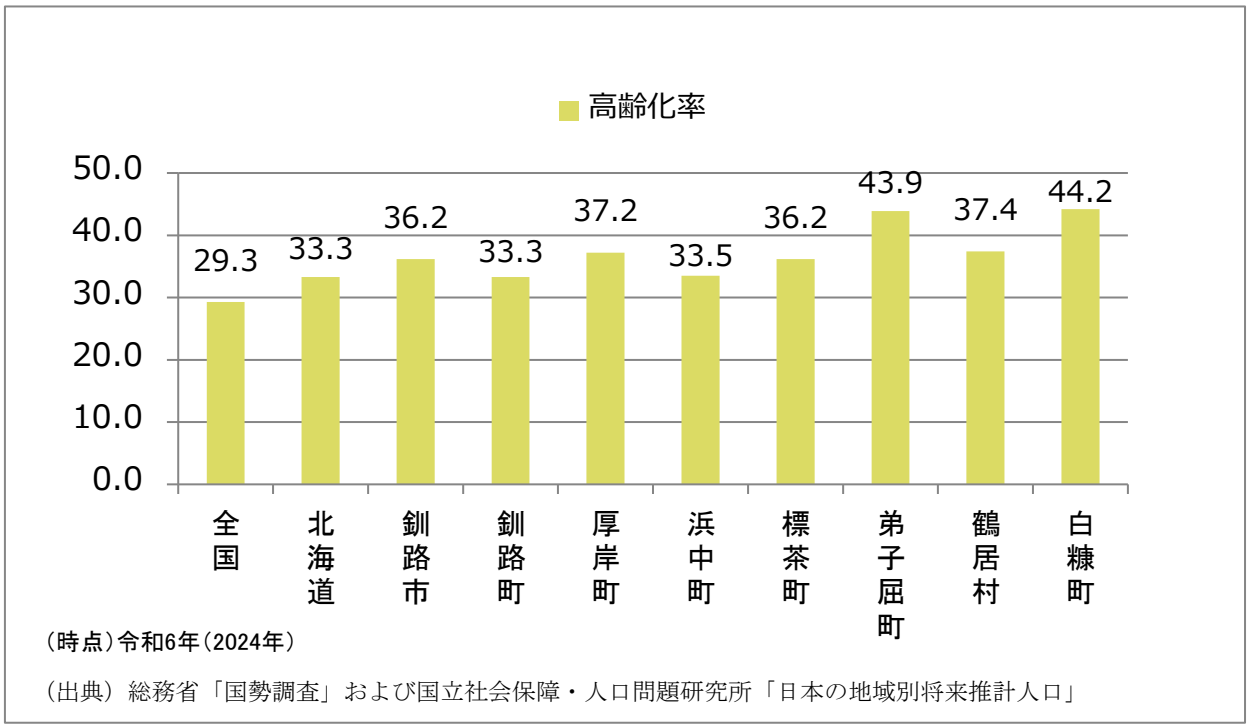
（注目する地域）白糠町
（出典）総務省「国勢調査」および国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

資料 3

【高齢化率】

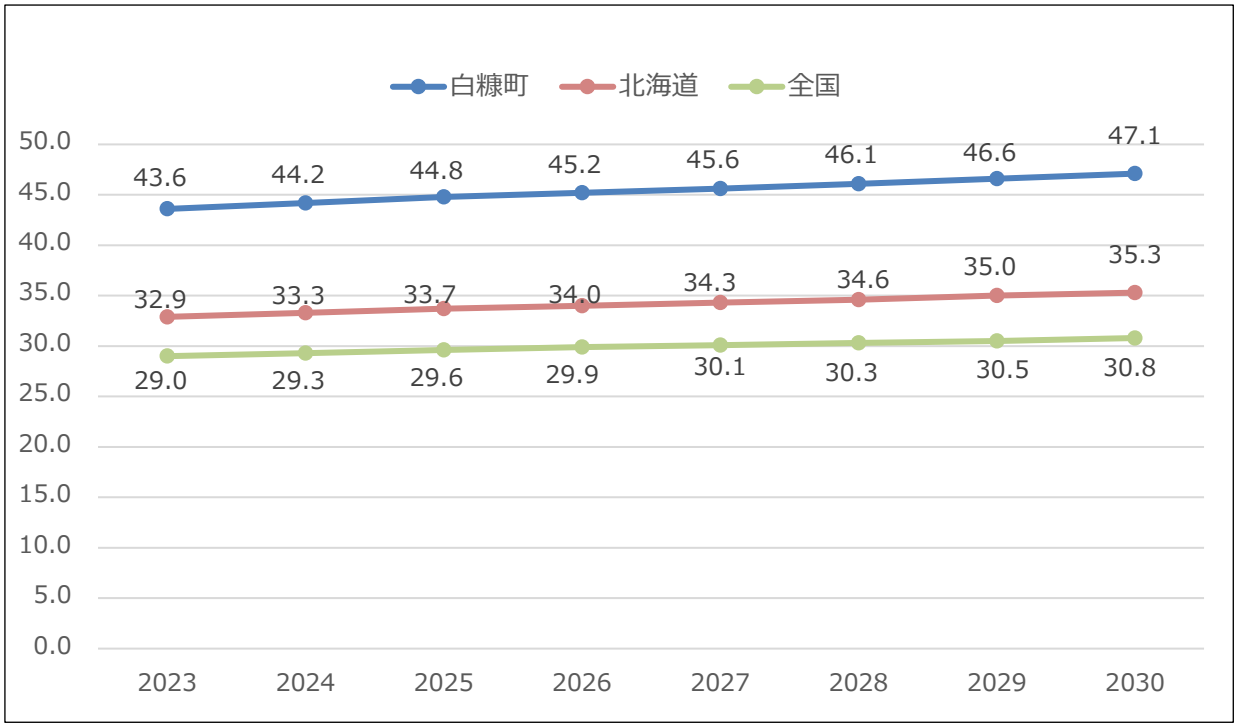
白糠町の高齢化率は全国・全道平均や管内市町村と比べても高くなっています。総人口は減少傾向にありますが、高齢化率は上昇を続け、2024 年 1 月時点で全道内 179 保険者中 34 番目となっており、2030 年には 47.1%と推計されています。

（図 2）



（出典）総務省「国勢調査」および国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

（図 3）



資料 3

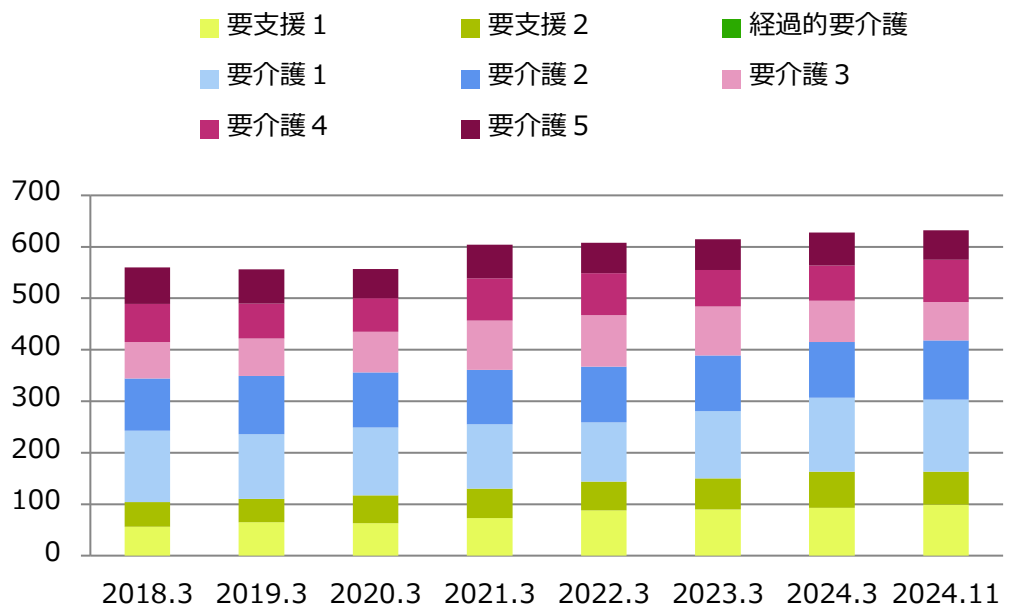
②認定者数と認定率

【認定者数】

認定者数は 2024 年 3 月末で 628 人。2024 年 11 月末では 632 人となっています。

介護度別に見ると、図 4 のとおり 2023 年と 2024 年を比較すると認定者数は増加傾向となっており、要支援及び要介護 1 の方が増え、要介護 3 の方が減っていることが分かります。重度化防止の取組の成果が現れていると推測されます。今後もより一層重度化防止に向けた取り組みを進めていく必要があります。

（図 4）



（注目する地域）白糠町

（出典）厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和 5,6 年度のみ「介護保険事業状況報告」月報）

	2018.3	2019.3	2020.3	2021.3	2022.3	2023.3	2024.3	2024.11
要介護 5	71	66	57	65	59	60	64	57
要介護 4	74	68	65	82	82	71	69	82
要介護 3	71	73	79	96	100	95	80	75
要介護 2	101	113	107	106	108	108	108	115
要介護 1	139	126	132	125	115	131	144	140
要支援 2	48	45	54	57	56	60	70	64
要支援 1	56	65	63	73	88	90	93	99
合　計	560	556	557	604	608	615	628	632

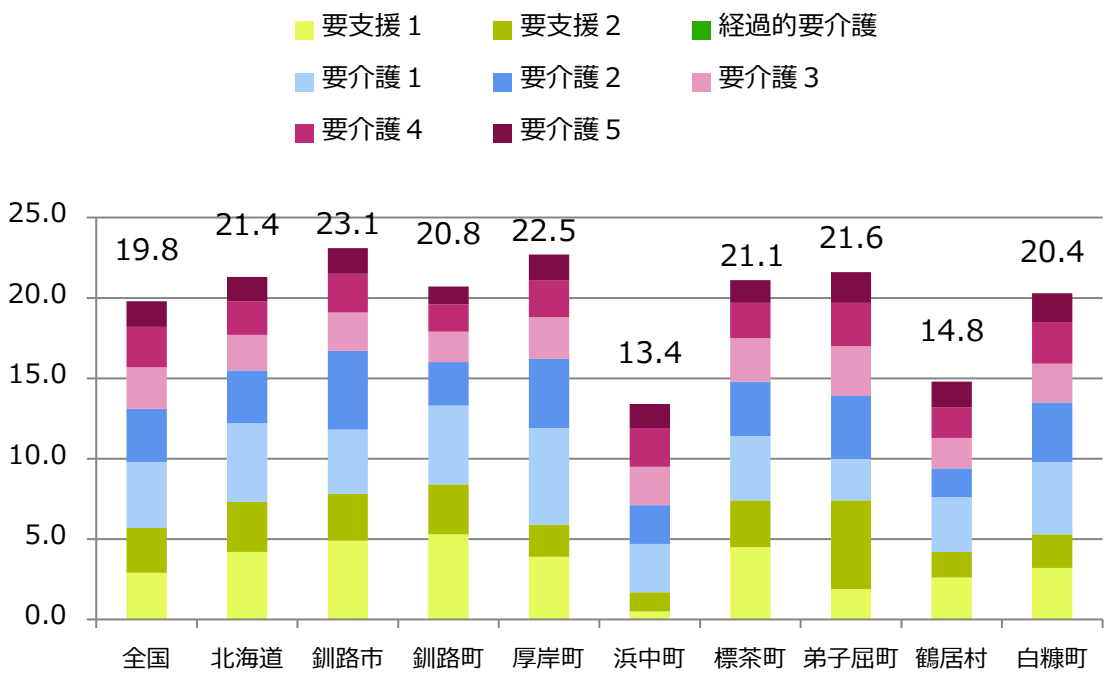
資料 3

【認定率】

北海道平均や管内市町村と比べると、図 5 のとおり白糠町の認定率は低くなっています。

これまでに取り組んできた、まちづくりの「三つの柱」のうちの一つである「町民の健康づくり」や介護予防の成果が現れていると推測されます。必要な方には認定を受けて頂くとともに、今後もより一層町民の健康づくりと介護予防の取り組みが必要です。

（図 5）



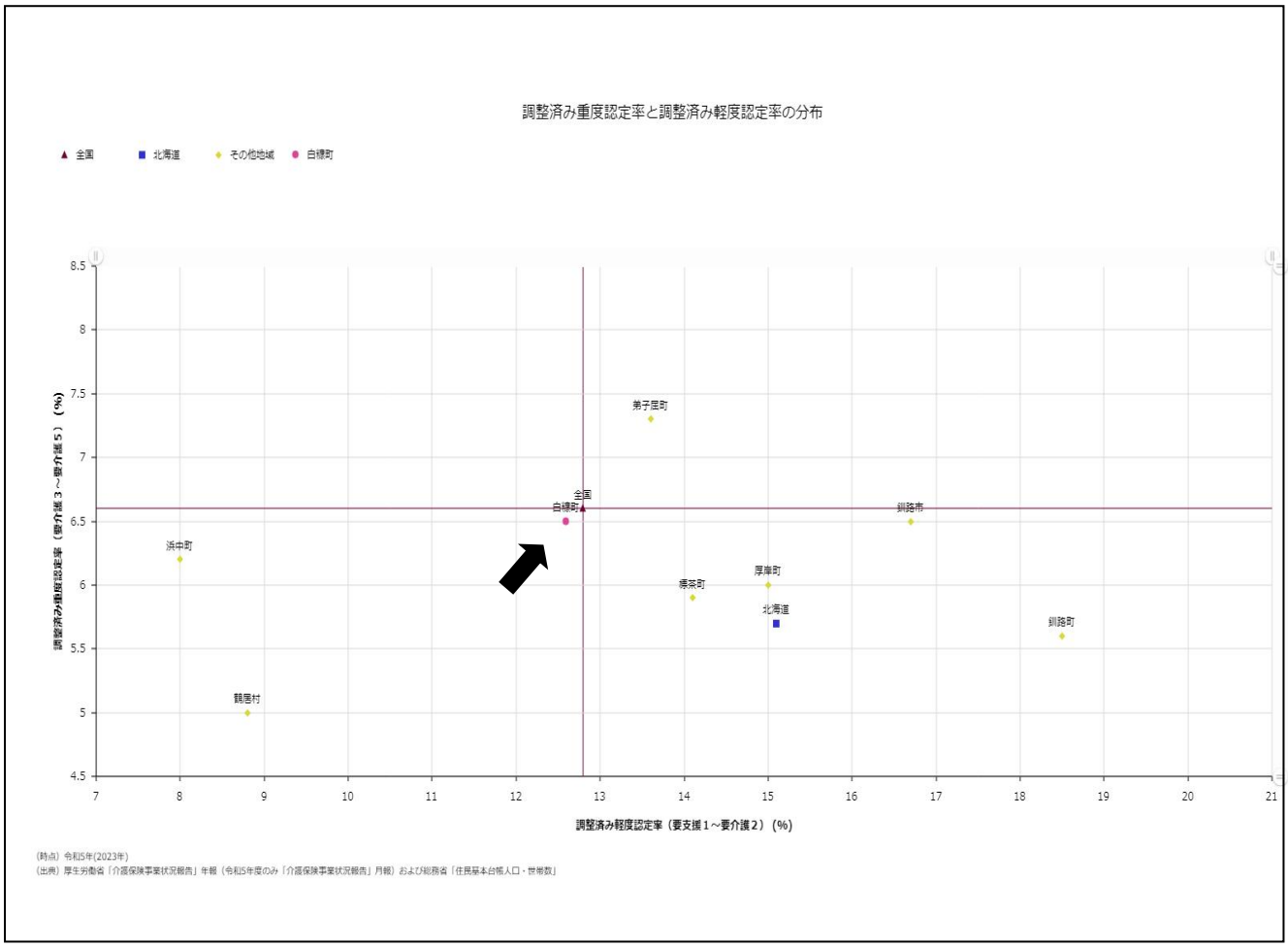
（時点）令和 6 年(2024 年)

（出典）厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和 5,6 年度のみ「介護保険事業状況報告」月報）

資料 3

図 6 は分布図になりますが、これは全国平均を中心として４分割すると、左下の白糠町、浜中町、鶴居村は、重度（要介護 3 以上）及び軽度ともに認定率が低い傾向にあることがわかります。右上の弟子屈町は重度及び軽度の認定率が高く、右下の標茶町、厚岸町、北海道平均、釧路市、釧路町は軽度の認定率が高い傾向にあります。前年度まで白糠町は左上の重度の認定率が高い傾向にあったため、重度の認定率が低くなりました。

（図 6）



資料 3

③受給者数と給付額

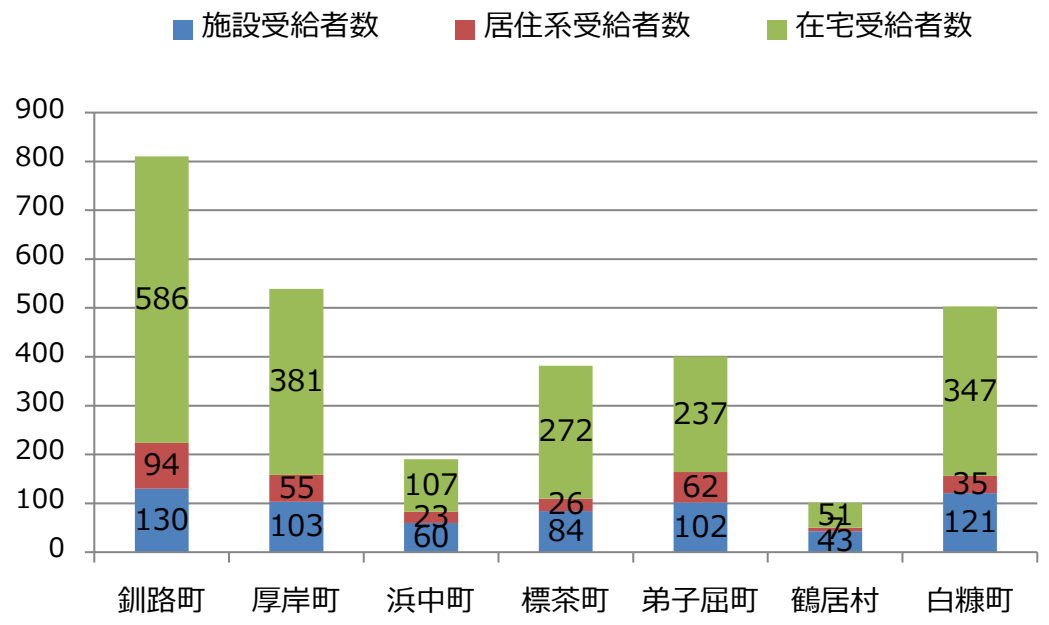
【受給者】

「受給者」は要支援・要介護状態であり、介護保険制度の保険給付を受けている方を意味します。

介護保険制度における保険給付は、「施設サービス」、「居住系サービス」、「在宅サービス」の3区分に分類されます。

図 7 は「施設・居住系・在宅受給者数」を示すものです。2024 年 9 月末の施設サービスは 121 人、居宅系サービスは 35 人、在宅サービスは 347 人の受給者数となっています。

（図 7）



（時点）令和 6 年 9 月(2024 年 9 月)

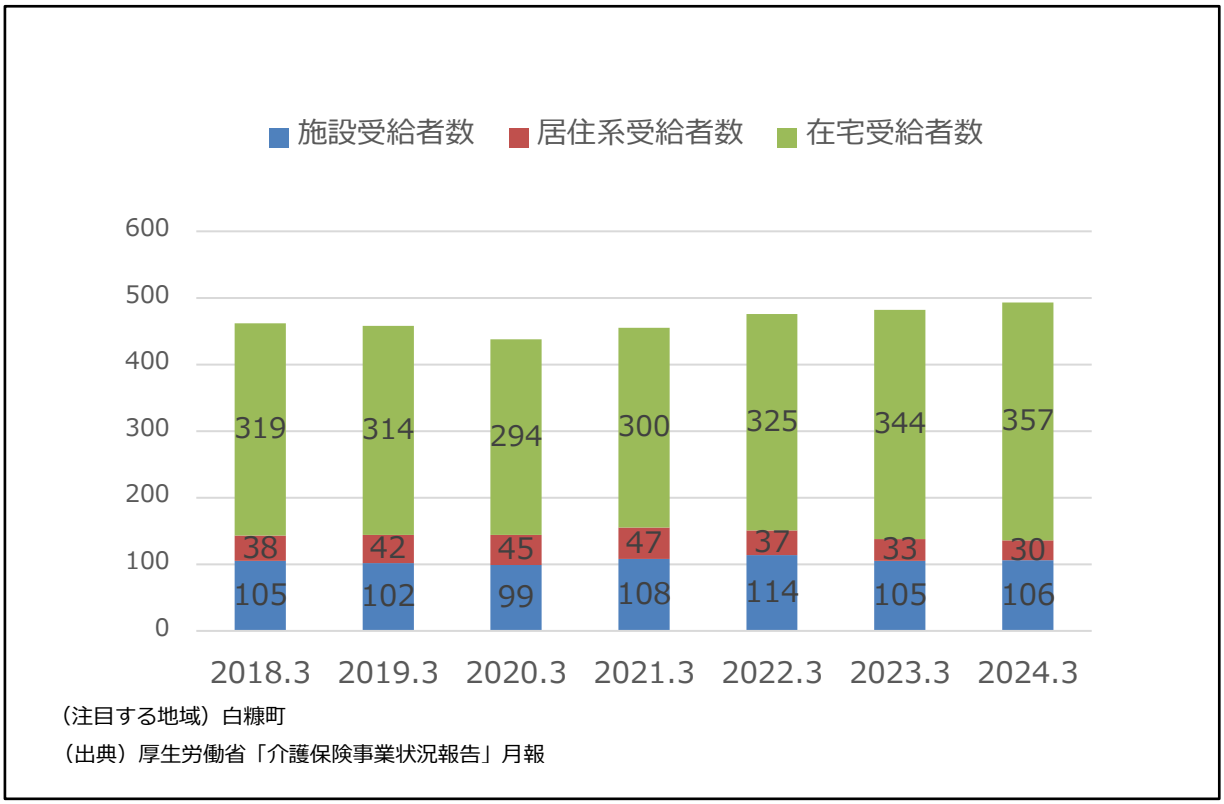
（出典）厚生労働省「介護保険事業状況報告」月報

資料 3

図 8 のとおり受給者数は年々減少傾向にありましたが、2021 年から増加傾向となっております。そのなかでも施設受給者数が増加傾向であります。

増加傾向にある施設サービスは「介護老人福祉施設」と「介護老人保健施設」に分けられ、それぞれの「第 1 号被保険者 1 人あたり給付月額」は、図 9 のとおりとなっています。

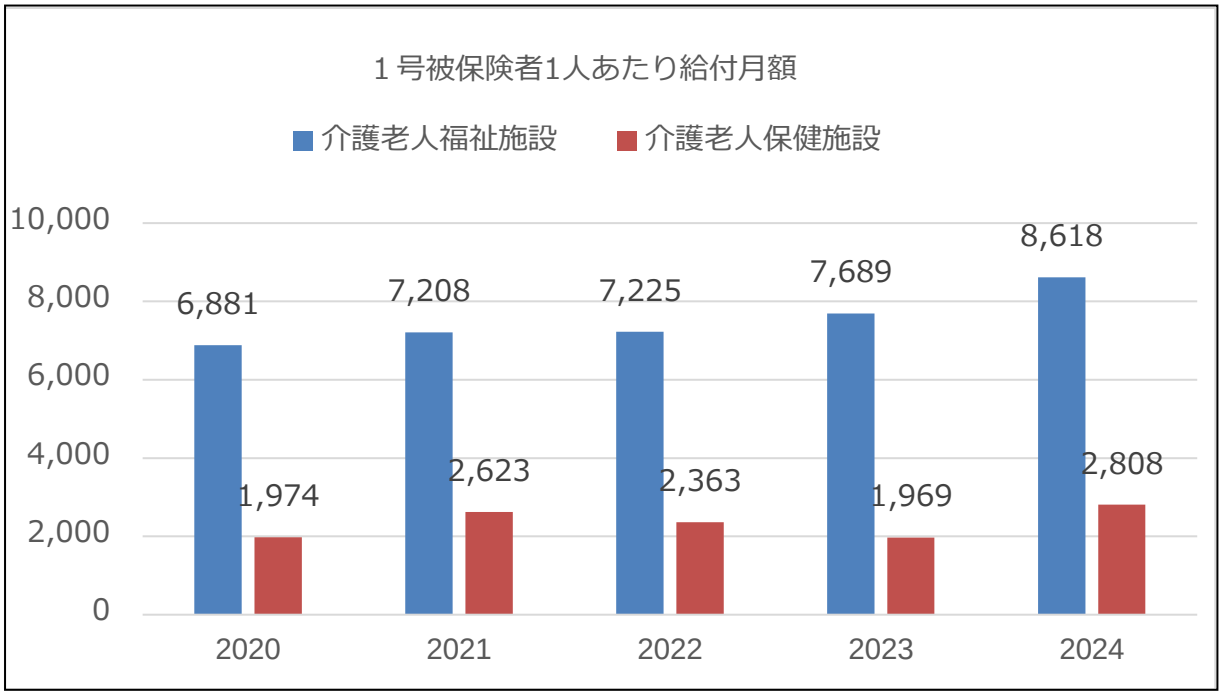
（図 8）



（注目する地域）白糠町

（出典）厚生労働省「介護保険事業状況報告」月報

（図 9）



資料 3

④平均寿命と健康寿命

【平均余命】

「平均余命」は男女ともに全国平均や全道平均、同規模の市町村と比べてやや短く、男性で80.3歳、女性で86.6歳となっています。

【平均自立期間（健康寿命）】

「平均自立期間（健康寿命）」は男性78.8歳、女性82.7歳であり、全国や全道平均、同規模の市町村と比べて男性はやや短く、女性は約1歳短くなっている。

（図 10）

平均余命（2023 年）	白糠町	二次医療圏※1単位	北海道	同規模	全国
男	80.3	平均余命 80.0	80.7	80.7	81.5
女	86.6	平均余命 85.9	86.8	87.2	87.6
平均自立期間（健康寿命）※2（2023 年）					
男	78.8	78.4	79.3	79.3	80.0
女	82.7	82.5	83.9	84.1	84.3

※1　二次医療圏

二次医療圏域とは、「特殊な医療を除く、入院治療を主体とした一般的な医療に対応するために設定する地域」であり、主に病院の一般病床及び療養病床の整備を図る地域的単位である。

※2　平均自立期間（健康寿命）

KDB システムにおける健康寿命を「平均自立期間」と呼び、「日常生活動作が自立している期間の平均」である。介護データを用いて「要介護２以上」を「不健康」として算出したもので、平均余命から不健康期間を除いたものが、平均自立期間である。

（時点）令和 5 年（2023 年）
（出典）北海道国民健康保険団体連合会　KDB システム「地域の全体像の把握」

資料 3

２．地域分析と現状把握

白糠町の総人口は年々減少傾向にありますが、高齢化率は全国・全道平均や管内市町村と比較しても高くなっています。しかしながら、認定率は北海道平均や管内市町村よりも低くなっており、要介護状態になる前の介護予防や健康づくりの取り組みが今後も必要です。

また、認定率は要介護１、要介護２の方が多く、重度よりも軽度の認定率が高くなっていますが、認定を受けた際は施設サービス、特に要介護３以上の認定を受けた方が利用する介護老人福祉施設の利用率が増加傾向となっております。

また、認定者数は増加傾向ですが、要支援及び要介護１の方が増え、要介護３の方が減っていることから、重度化防止の取組の成果が現れていると推測されます。今後もより一層重度化防止に向けた取り組みを進めていく必要があります。

白糠町の平均余命は全国・全道平均よりも短く、健康寿命も短い状況にあります。本町では令和５年度よりＫＤＢデータを活用し、健診・医療・介護情報を一体的に分析し、町の健康課題を把握し、その課題から生活習慣病の重症化予防を図り、高齢者の自立促進、健康寿命の延伸につなげるため、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の取組を行っています。

介護になる前の疾病の重症化予防や介護予防等の取組みが効果的に実施できるように、関係部署で連携し、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい生活を続けることができるよう、「地域包括ケアシステム」を深化・推進するため、今回の地域分析等を踏まえ、関係者間で十分な議論を行い取り組んでいく必要があります。